

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 960 号	氏名	戸田 みつる
学位審査委員	主 査	橋爪 真弘	
	副 査	平山 謙二	
	副 査	皆川 昇	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)を活用した感染症サーベイランスシステム(mSOS)を試験的に構築し、感染症アウトブレイクの早期警戒システムとしての有効性をランダム化比較試験により検証したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ケニアのブシアおよびカジアド地域における135の医療施設を対象として、従来より同国保健省が導入している紙ベースの感染症報告システムの研修を行った後、当該医療施設を無作為に mSOS 導入群(67施設)と対照群(68施設)に分け、導入群にのみ mSOS 利用法の研修を行った。mSOS 導入前6か月間(ベースライン調査)と導入後6か月間の対象感染症の患者数、報告率および対応率を計算し、群間で比較した。解析は、Intention to treat (ITT)解析および Per protocol 解析の双方を用いており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 mSOS 導入後6か月間で、対照群では39件の報告対象感染症のうち1件(2.6%)が報告(紙ベース)されたのに対し、mSOS 導入群では130件のうち25件(19.2%)が mSOS により報告され、対照群に比べ導入群で有意に報告率が高かった (ITT 解析)。導入以前の報告数は両群併せて36件中対照群の1件のみであった。mSOS の導入により、医療施設からの感染症報告率が有意に向上し、感染症アウトブレイクの早期検知において有効であることが示された。今後同様のシステムを用いた感染症サーベイランス構築のための研究に資することが大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は感染症疫学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			